

平和記念だより 99

2026年4月

◆編集・発行/高松市市民局人権・男女共同参画推進課 高松市平和記念館
◆連絡先/〒760-0068 高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

小・中学生のための平和講演会

「小・中学生のための平和講演会」は、次世代を担う小学生や中学生に平和の尊さを理解してもらうための事業として、令和元年にスタートして7年目となり、計12校で実施されました。戦争の実相を伝えるために、講師の方が戦争中にそれぞれの経験したことや、実際に起こった出来事について子どもたちに語ります。令和7年度は高松市立弦打小学校、高松市立国分寺南部小学校の2校で開催しました。

高松市立弦打小学校

- 開催日：令和7年10月31日(金)
- 内容：広島での被爆体験について
- 講師：長尾 てるお 昭雄さん
- 対象：弦打小学校6年生(87名)



16歳の時に疎開先の広島市で働いている中で被爆し、強烈な熱線と爆風にさらされたこと、また仲間の多くが命を失う中、運よく一命をとりとめた当時のことを振り返って訴えました。

「今続いている平和を大切にしたい。」「私たちのために当時のお話をありがとうございました。」等、児童の感想や感謝の言葉が寄せられました。

高松市立国分寺南部小学校

- 開催日：令和7年12月16日(火)
- 内容：高松空襲の体験について
- 講師：池田 みのる 實さん
- 対象：国分寺南部小学校6年生(117名)



水田に飛び込み、襲い掛かる焼夷弾の炎や熱風から逃れた高松空襲の体験談が真に迫ります。衣食住の全てを失ったその後の一家の生活が、いかに苦難に満ちたものであったかもよくわかりました。

講演後に「戦争は多くの人を命を奪うので怖い。繰り返してはいけない。」「学んだことを未来の自分とつなげていきたい。」等、児童の感想が寄せられました。

学校から、親戚に人手の足りない農家があれば麦刈りの勤労奉仕に行きなさいと命令されて、^{そぎしよ}粉所村（現綾川町）の叔母の家に手伝いに行っていた。空襲の日、叔母さんから「武ちゃん、おまえんとこ焼けてとぞ。」と起こされて、すぐに高台から高松方面をながめた。焼夷弾が花火のように落ちていて、その下で自分の家が焼けているのはわかっているけれど、それがきれいだなと思ったことを鮮明に覚えている。その後、駆け付けた自宅の周囲は焼け野原になっており、死体のごろごろ転がっていた。家の焼け跡に手紙付きの棒がささっていて、家族が無事であることが分かった。

証言者プロフィール

- 当時 中学校 1 年生
- 住所 一番丁
- 家族 8 人
父母、子ども 6 人
- 家業 四国新聞社勤務

「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集



平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)

4 月の上映 「ウミガメと少年(野坂昭如戦争童話集)」(45 分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後 1 時～

解説▶ 将来の夢を語り合ったノリオと花子がテツオの目の前で空襲により命を奪われる。「いつか一緒に見よう。」と約束したウミガメの産卵を目にしたテツオは、卵を大事に育てようとするが…。野坂昭如さん原作のアニメーション。



5 月の上映 「かんからさんしん」(78 分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後 1 時～

解説▶ 太平洋戦争末期、避難していたガマ(洞窟)の中で、手りゅう弾を手に死を覚悟する人々。それを思いとどませたのは、ガマの外から聞こえてくる島唄の懐かしい音色であった。「生きる」この意味をサンシンにのせて唄う人々と、沖縄戦の悲惨さを描いた長編アニメーション。



6 月の上映 「焼跡の、お菓子の木 (野坂昭如戦争童話集)」(45 分)

日時▶ 開館日の土・日、午後 1 時～ ※ 6 月 21 日(日)まで

解説▶ 太一が友人の春男からもらった 1 冊の本には、「パンの木」が 1 本あればお腹いっぱい食べて暮らしていけると書かれていた。空襲がますますひどくなる中、もしかしたら「お菓子の木」だってあるんじゃないかと夢見る太一たち。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。



※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼令和 8 年度行事予定▲

5月

● 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

期 日 令和 8 年 5 月 9 日 (土)
場 所 たかまつミライエ 1 階 多目的室
内 容 エルダーキャッツ上演「高松空襲の夜」
映画「長崎 ― 閃光の影で ―」

6,7
月

● 高松空襲展

期 日 令和 8 年 6 月 26 日 (金) ~ 7 月 6 日 (月)
場 所 たかまつミライエ 5 階 平和記念館
内 容 高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示
高松空襲体験伝承のための交流会

7月

● 高松市戦争遺品展

期 日 令和 8 年 7 月 10 日 (金) ~ 7 月 16 日 (木)
場 所 瓦町 FLAG 2 階 コンコース
内 容 当館収蔵品等を展示

● 教職員のための平和教育講演会

期 日 令和 8 年 7 月 27 日 (月)
場 所 たかまつミライエ 会場については未定
内 容 講演(内容未定)と「平和学習」の説明

8月

● 原爆パネル展

期 日 令和 8 年 8 月 4 日 (火) ~ 8 月 10 日 (月)
場 所 瓦町 FLAG 8 階 IKŌDE 瓦町展示コーナー
内 容 原爆関連資料の展示

11
月

● 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

期 日 令和 8 年 11 月 21 日 (土)
場 所 香南町吉光文化センター
内 容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※ 都合により、開催を中止・延期することがあります。



手投げ消火器 (防火弾)

寄贈者 三好 善三郎 様

消火器の一種。空襲の事態に備えて、一般家庭に備え付けられた。投げるとガラスが割れ、中の消火液が飛散し、不燃性のガスが発生して消火する仕組みになっている。当時の内務省防空研究所の消火試験では、ある程度の効果が見られたが、なるべく初期消火に用い、同時に水や砂をかける必要があると指摘している。

さらに地域の消火設備はお粗末で、手漕ぎポンプで水をくみ上げ、バケツリレーで運ぶという程度であった。政府は「逃げるな。持ち場を守れ。」と指導し、多くの人が逃げ遅れて命を落とした。本消火器は、寄贈者の知人の家にあったもので、戦後その知人から入手した。



「常設展示コーナー」に展示中

参考：「家庭防空の手引」
国立公文書館デジタルアーカイブ

編集メモ

本年1月、ニュース番組で「詫間海軍航空隊」を教材とした授業を学校で実践する、香川大学教育学研究科の大学生を取材していました。この航空隊は、水上機の教育を受けるため、全国から約二千名の兵員が集められたものです。しかし、戦局が悪化すると神風特別攻撃隊「琴平水心隊」が編制され、沖縄戦にて米軍艦船に突入し、57名の若者が沖縄の地に散りました。戦争の犠牲になった特攻の悲劇が香川にもあったことを忘れてはいけないと思いました。



たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ5階）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>



▲QRコード

学徒勤労働員

【読み】がくと きんろう どういん

【分類】戦時中の学校

太平洋戦争中、多くの男性が兵役で戦地赴任となり、日本各地の深刻な人手不足を補うため、中等学校（旧制中学や高等女学校など）以上の生徒・学生を軍需工場や農村などでの労働に強制的に動員した政策。1944（昭和19）年の「学徒勤労令」により、ほぼ通年動員され、授業は停止した。米軍による軍需工場を標的とした空襲に巻き込まれ、全国で約一万一千名の学徒が命を落とした。

高松市から大阪府、兵庫県、岡山県、広島県など県外への動員先があり、その一例に兵庫県の川西航空機製作所では県立高松商業学校（現高松商業高校）197名と県立高松高等女学校（現高松高校）250名の生徒が勤労働員で働いていた。

参考：「戦前・戦中」用語ものしり物語
北村恒信 著 光人社
勤労働員（県外動員先）解説パネル
高松市平和記念館